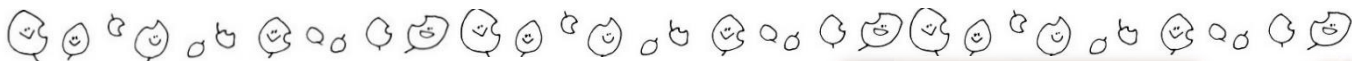




ひよこぐみだより 10月号

木々の葉の色が変わり始め、秋の訪れも目に見えて分かるようになってきました。
子ども達は体力もついてきて、伸び伸びと身体を動かして遊んでいます。中でもお祭りごっこは盛り上がりを見せていてあちらこちらからお祭りの掛け声が聞こえてきます。



お祭りごっこ

おみこしを担ぎ「よーいやさー」と口ずさんだり、シデ棒を掛け声に合わせて振りながら園庭を歩いて回っています。

室内で遊んでいると、A児が「よいやさしたい!」と言ってはちまきを保育者に渡してきました。はちまきを巻いて、シデ棒を持つと次々に“わたしも・ぼくも”と寄ってきてお祭りごっこが始まります。

戸外でも室内でもお祭りごっこが盛り上がりしていました。



獅子舞はこわく、、、ない?!

獅子舞を見に行きました。実物の獅子舞に初めは固まっていた子ども達ですが、踊り終わると拍手をしたり指をさし「わぁ〜!」とつぶやきもいました。

本園の子ども達が獅子舞に頭を噛んでもらう様子を見て、B児は近づいてくる獅子舞に不安そうな顔を浮かべていました。ですが、地域の方に「大丈夫だよ」と優しく声を掛けてもらい、最後には獅子舞の頭をなでる姿も見られました。



家庭での「遊び」レシピ



① 絵本を読む

絵本を開くだけで、言葉のやり取りができ、物語の世界へ連れて行ってくれる魔法のツールです。膝の上で大人の声を聴く、それだけで安心感も得られ、情緒も落ち着きます。また、子どもが何かに興味を持ったら、一緒にそのことについての本をみてもいいかもしれませんね。

② ふれあう遊び

子どもにとって、ふれたり、ふれられたりすることは大切です。スキンシップを通して、その人との良好な関係を築きます。たくさんのスキンシップを通して、子ども達はきっと「自分が愛されている」という強い実感が残ると思います。

③ お手伝いを遊びに

少し大きくなってきて、「自分で!」「いや!」が多くなってきた子どもには、お手伝いがおすすです。家で役に立つということが子どもの自己肯定感を育みます。

④ 自然と遊ぶ

乳幼児期には、体を動かすことがとても大切です。どんどん外へ行きましょう。自然の中で遊んでいる時、子どもは知らず知らずのうちに五感を研ぎ澄ませ、様々な事を学んでいます。